

高齢者を守る！特殊詐欺講座と被害防止ハンドブックの活用事例



キーワード

特殊詐欺講座、特殊詐欺ハンドブック、特殊詐欺すごろく

○取り組んだきっかけ

木村ゼミでは静岡県警と連携して地域の防犯活動に取り組んできた。その中のひとつが特殊詐欺に関する取組である。多くの対策がさなれる中で高齢者がターゲットとなる特殊詐欺の被害はなくなり、高額な被害も多数報告されている。大学生としてできるアクションとして、特殊詐欺に関する教材開発を試みた。

○活動の目的

特殊詐欺に関する現状を学び、教材開発を行うとともに浜松市と大学との連携事業～大学生による講座～を活用し特殊詐欺を防止するための講座を開催し、高齢者の被害防止に貢献する。

○具体的な内容

1) 特殊詐欺防止すごろくの開発

高齢者を楽しんで特殊詐欺を学んでもらうための教材として、「特殊詐欺すごろく」を開発した。すごろくには、特殊詐欺に関する10個のクイズとポイントが配置されている。クイズは警察庁や静岡県での被害を参考に学生同士で意見を出し合っって詐欺防止に有効なクイズを選定し、静岡県警からもアドバイスをもらって作成した。

複数人でサイコロをころがし、クイズの正答を考えることで認知長予防につながる前頭連合野の刺激・活性化もねらった。



2) 特殊詐欺ハンドブックの開発

コロナ禍の影響を受け、2021年度は浜松市連携講座を実施できなかった。また、2020年度の反省点として、特殊詐欺に関する注意喚起を行うための紙ベースの教材の必要性が課題となり、ここは未来塾の助成を受け、「特殊詐欺撃退ハンドブック」を作成した。

ハンドブックの作成にあたっては、現役警察官にアンケート調査を実施し、ハンドブックに反映した。



木村ゼミ

健康プロデュース学部・心身マネジメント学科

さらに、ゼミのYouTubeチャンネルに動画を公開し、広く、特殊詐欺に関心をもってもらう取組を行った。作成したハンドブックは地域の警察署、協働センター、区役所の窓口、地域貢献センターに配布した。



3) 特殊詐欺講座の開催

浜松市と大学との連携事業～大学生による講座～を活用し、地域の協働センターにおいて講座を実施した。

学生は参加者に対し、今からできる被害防止策として、①「自分は大丈夫」という考え方を捨てる ②ご家族やご近所同士で日頃コミュニケーションを取っておく ③少しでもおかしいや怪しいと思ったら警察や身近な人に相談する、などを紹介した。参加した高齢者からは「色々な種類の特殊詐欺を知ることができた」「改めて騙されないように注意したい」等、講座への満足度を知ることができた。2021年度は3つの協働センター、2022年度は2つの協働センターで実施し、新聞、テレビなどの取材を受け、多くの人たちに取り組みを発信することができた。



○期待される効果

高齢者の被害が多数報告されている特殊詐欺への注意喚起を促し、詐欺の被害防止が期待できる。また、学生が講座を行ったり、教材を開発することで学生がターゲットとなっているUD(受け子・出し子)の闇バイトの防止にも貢献することができる。

連携先

浜松市・静岡県警